

小笠原村立母島中学校令和5年度授業改善推進プラン

小笠原村立母島中学校
校長 井口 寛隆

(1) 令和4年度の取り組み状況に関する総括

① 令和5年度村学力調査の結果より

各教科において以下の課題が見られた。

国語

1年生の国語は全体的に全国平均とほぼ同様でおおむね良好な状況であり、小学校で習ったことが定着しているようである。しかし、「漢字を読む」「文学的な文章の内容を読み取る」に関しては課題がある。

2年生の国語を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況であるが、昨年度から引き続き「漢字を書く」には課題がある。また、「言葉の特徴や使い方に関する事項」について課題があり、領域「書くこと」は全国平均を10ポイント以上高いが「話すこと・聞くこと」に課題がある。しかし、昨年度の「主体的に学習に取り組む態度」は低かったものの、この1年で大幅に上昇し、全国平均も10ポイント上回っている。

3年生の国語を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況であるが、「漢字を読む」と「文章を書く」については課題がある。

社会

1年生社会を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。問題の内容は、「日本国憲法」に課題がある。

2年生社会を見ると、全国平均を下回り、課題があるといえる。ただ、基礎はおおむね良好な状況である。問題の内容は、「飛鳥時代～平安時代」と「世界各地の人々の生活と環境」に課題があるといえる。領域「歴史」、観点「知識・技能」に課題があるといえる。

3年生社会を見ると、全国平均を下回り、課題があるといえる。ただ、基礎はおおむね良好である。問題の内容は、「日本の諸地域」と江戸時代に課題がある。前年度の課題であった「知識・技能」は、ほぼ全国平均になっているが、今年度は「思考・判断・表現」が課題になったといえる。

数学

1年生の数学を見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況であるが、問題の内容は、「百分率」と「面積と体積」に課題があるといえる。

2年生数学を見ると、全国平均を下回り、課題があるといえる。特に、「データの活用」に課題がある。観点については全体的に課題がある。

3年生数学を見ると、全国平均を上回り、たいへん良好な状況であるが、「データの分布の傾向」と「証明」に課題がある。また、観点の「知識・技能」については前年度同様、全国平均を10ポイント以上上回っている。

理科

1年生理科を見ると、全国平均とほぼ同程度でおおむね良好な状況であるが、活用に課題があ

る。

2年生理科を見ると、全国平均を下回り、課題があるといえる。しかし、活用はおおむね良好である。問題の内容は、「火山」と「地層」に課題があるといえる。また観点においては「知識・技能」に課題があるといえる。

3年生理科を見ると、全国平均とほぼ同程度でおおむね良好な状況である。ただ、活用に課題があり、特に「粒子」領域に課題がある。

英語

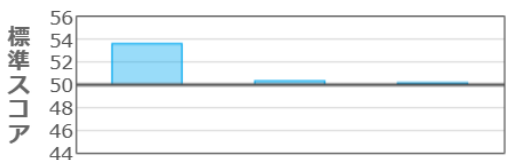
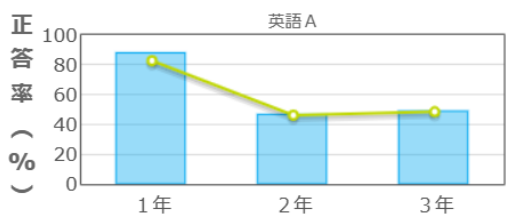
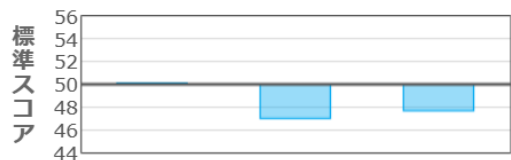
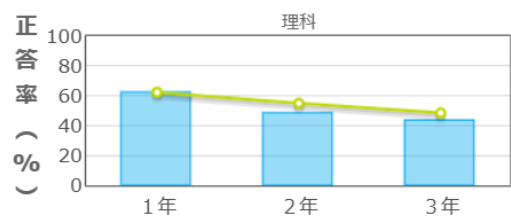
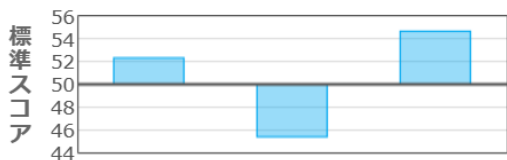
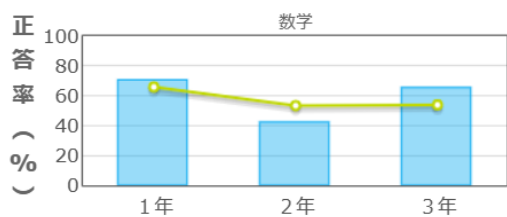
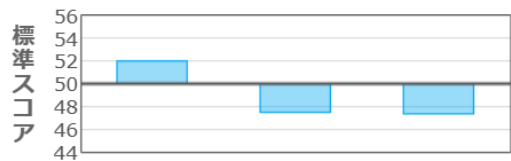
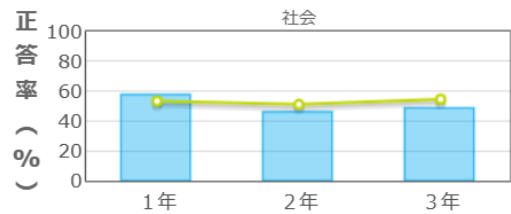
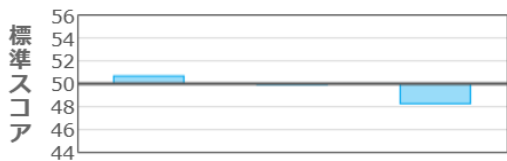
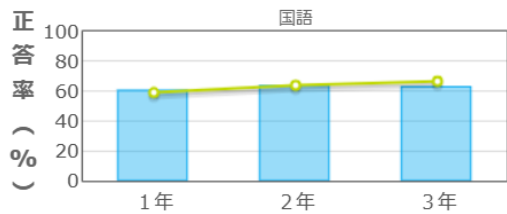
1年生英語Aを見ると、全国平均を上回り、たいへん良好な状況であり、小学校から継続して取り組んでいる「英会話の時間」の成果も見られる。ただ、「英作文」に課題がある。

2年生英語Aを見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。

3年生英語Aを見ると、全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。

問題の内容は、「語形・語法の知識・理解」と「3文以上の英作文」に課題がある。また、昨年度は「思考・判断・表現」に課題があったが、今年度は「主体的に学習に取り組む態度」に課題がある。

■校内 ■全国



以上の各教科の概観から、どの教科においても以下の3点が本校生徒の課題であると考えられる。

- ・題意を読み取る力
- ・自分の考えや思いを言語活動で表す力
- ・各教科での基礎的・基本的な知識の確実な定着

② 令和5年度村学力調査における生活行動調査の結果より

「朝食をきちんと食べている」「夕食をきちんと食べている」「朝は、時刻を決めて起きている」「夜は、時刻を決めて寝ている」といった、基本的な生活習慣を守ることはおおむねできている。

また、学習に対する姿勢については、「家では勉強する場所を決めている」「勉強にパソコン（インターネット）を利用している」など、高い数値となっている。

一方で、地域的環境による学習習慣の定着の難しさが、昨年度に引き続き見られた。「新聞記事を読んでいる」「勉強に図書館を利用している」「参考書や問題集などを使って、勉強している」「通信添削を利用して、勉強している」という質問項目において、どの学年でも否定的な回答が多く見られた。

(2) 授業改善のための取組について

小笠原村教育委員会教育目標実現のための授業改善に関する取組の重点

○ 授業UDの徹底

→ 「わかる」から「できる」を**体感する授業**の推進

① 課題の要因

(1) で挙げた課題の要因としては、以下の2点が考えられる。

- ・島しょという地域的環境による学習習慣の定着の難しさ
- ・読書習慣の希薄さ

学習習慣の定着の難しさについては、家庭学習よりも地域の活動（運動クラブなど）に時間を費やしている背景がある。地域の活動に真剣に取り組みながらも計画的に学習に取り組めるよう指導・支援していくことが必要である。また、島内には学習塾がなく、通信添削を利用している生徒も少ない。だからこそ少人数指導の強みを生かし、今後、さらに学校からの支援・指導を充実させ、家庭での学習習慣が定着するだけでなく質の高い自主学習が行えるような手だてを講じる必要がある。

また、読書習慣についても、生徒が落ち着いて読書に取り組める環境づくりや様々な本に触れられる機会の提供を、学校が主導して行っていくことが重要であると考えられる。

② 学校全体で取り組む事項

学習指導の充実を図るための方策

【授業UD】

全ての生徒にとって「わかる」から「できる」授業を実施するために、ICTを積極的に活用し、視覚的に分かりやすい授業を構成するようする。また、生徒の身近な興味や関心に訴えかけるような学習課題を設定し、生徒が意欲的に学習に取り組めるようにするとともに、それらを家庭学習や家庭での話題に還元することができるようにする。

教室を整理整頓し、前黒板の左右にある掲示板は、全学年統一した内容のものだけを決められた位置に配置した。これにより授業中に不必要な情報が生徒の視界に入らないようになり、生徒の集中力を高めている。

学校生活の見通しをもたせるために全学年で1日の予定を後ろ黒板に掲示し、かつ連絡ノートに翌日分を記入させている。

指示の出し方を具体的にし、どこまで伝わっているか確認することを心掛けている。

視覚的な手掛かりを示すため、板書には「学習目標」「めあて」など大切なところを示すマークを教科の実態に合わせて用いている。

分かりやすいワークシートを用意するために、母島中学校はA4またはA3の用紙に統一して使用している。

【家庭学習の内容】

生徒が意欲的に取り組むことができる家庭学習の内容を設定する。また、国語科における新出漢字、数学科における計算の技能などが確実に定着するよう、基礎的・基本的な内容の家庭学習を繰り返し行えるようにする。また、家庭学習ノート（自主学習ノート）の取り組みを行っている。朝学活の際に担任が回収し、自主学習の内容をチェックしてアドバイスしている。提出回数などは学年の現状に合わせ、生徒の継続する意欲を高めるよう提示している。

【朝読書の時間の設定】

ベーシックタイムや朝会・集会の時間以外の朝の時間は、朝読書を実施している。各学級で、生徒一人一人が落ち着いて読書をする時間を確保する。朝読書を通して家庭での読書時間につなげ、ひいては一人で学習に取り組む時間の確保につなげていく。

【ベーシックタイムの実施】

8:00～8:10の10分間、主に水曜日と金曜日に実施している。国語・社会・数学・理科・英語の5教科を1年間に順番に割り当て、基礎基本の定着を図っている。

「指導と評価の一体化」の実現を図るための方策

【振り返りの指導】

毎回の授業で、学習内容を振り返る時間を設定する。また、単元テストの振り返り活動を通して、各単元の学習内容を着実に定着できるようにする。振り返りから学習の理解度などの生徒の実態を把握し、次の指導へと生かしていく。また、都教委訪問による研修を実施し、更に信頼される指導と評価の一体化を進めていく。

義務教育9年間の学びの連続性を意識した小中一貫教育推進のための方策

【校内研究の取り組み】

母島小中学校では、小中合同で校内研究に取り組んでいる。昨年度までの研究テーマであった「基礎学力向上のための、少人数指導の工夫」から得た成果をさらに発展させ、これか

らの母島の生徒が身に付けてほしい力として、「自分の考えや思いを相手に伝わるように表現できる母島っ子」を研究主題に設定した。少人数である母島の特色を生かした指導を行い、村学力調査で課題として表面化した「書く」「話す」「聞く」などの言語活動を中心に、課題を解決するための知識や技能を養い、得た知識・技能を活用しながら自分の考えや思いを表現できる生徒の育成を行っていく。

【ホワイトボードやタイマーの活用】

各教室にホワイトボードを生徒数分用意している。またタイマーを各教室や特別教室に1台用意している。ホワイトボードを使用し各授業で発表活動を多くすることにより、説明する力や表現する力の向上を目指している。また、タイマーで時間を示した指導を行うことで、生徒が見通しをもって活動に取り組めるようにする。

【GIGA スクール構想， ICT 端末の活用について】

母島小学校，中学校で同じタブレット端末を使用している。以下のことを実践している。

- ・各教科でミライシードのドリルを活用した演習を行っている。
- ・各教科で上記に記載したホワイトボード以外にタブレット端末のジャムボードを利用した意見交換を場面に応じて行っている。
- ・技術や美術，音楽ではタブレットを使用して作品などを記録している。
- ・数学科では GRAPES を使用し，各学年の関数の単元ではグラフ作成を行っている。
- ・生徒会選挙のポスターを生徒がタブレットを利用し作成している。
- ・教員同士でジャムボードを利用して研究授業の協議会を行った。生徒に使うように指示するだけでなく，教員も活用していくことにより，タブレット端末の扱い方の理解を高めている。
- ・感染症対策等で欠席している生徒で，オンライン授業を希望する生徒がいた場合は，オンライン授業を実施している。
- ・オンラインでの小笠原中学校との交流を実施している。